

令和元年度電気化学会北陸支部春季大会ならびに講演会記録

令和元年 6 月 20 日
電気化学会北陸支部

企業見学会 1 (参加 5 名)

日時：6 月 13 日 (木) 15 : 00 ~ 16 : 00

場所：金沢市企業局末浄水場水道施設 (石川県金沢市末町1-1)

末浄水場のろ過方式や、金沢市内の配水範囲などのご説明の後、小水力発電設備や緩速沈殿池、急速沈殿池、緩速ろ過池を順次見学した。緩速・急速の異なる2つのろ過方式について、両者の特徴を挙げながら詳細にご説明頂いたため、理解が深まった。



「若手の会」 (参加 15 名)

日時：6 月 13 日 (木) 21 : 00 ~ 23 : 00

場所：金沢犀川温泉「川端の湯宿 滝亭」(石川県金沢市末町 23-10)

講演者および講演題目：

中野 正浩 先生 (金沢大) 「電子不足チエノアセンの合成と応用」

廣瀬 大亮 先生 (北陸先端科技大) 「ナノレオロジープリンティングのバイオセンサ応用」

北陸支部恒例企画である若手の会 (わかってんのかい) を開催した。最初に、金沢大学の中野正弘先生より「電子不足チエノアセンの合成と応用」というご講演があった。有機薄膜半導体として利用可能な π 共役系化合物の合成手法とその応用例に関する内容であり、非常に興味深い内容であった。2 件目は、北陸先端科学技術大学の廣瀬大亮先生より「ナノレオロジープリンティングのバイオセンサ応用」のタイトルでご講演があった。ナノレオロジープリンティングの基本的な手法から応用展開について、利点や研究課題を含めて説明があり、将来性のある面白い内容であった。両講演とも、研究成果やその説明に対する鋭い意見が出たり、今後の研究に関する具体的なサジェスチョンが飛び出したりと、講演途中に活発な議論が交わされており、非常に有意義な講演会であった。これからも、若い先生方、また「若い」と思っておられる大先生方に、より多くご参加頂き、この学術交流会を盛り上げるとともに、若手研究者の育成に繋げていきたい。

特別講演会（参加 50 名）

日時：6月14日（金）9：10～11：00

場所：金沢大学自然科学系図書館 AV ホール（石川県金沢市角間町）

1. 「電気・光特性を自在に活用できる有機材料の開発」
金沢大学 理工学研究域 准教授 古山 溪行 先生
2. 「逆型有機薄膜太陽電池（逆型 OPV）の研究開発を振り返って」
金沢大学 理工学研究域 教授 高橋 光信 先生

最初に金沢大学の古山溪行先生より「電気・光特性を自在に活用できる有機材料の開発」のタイトルでご講演が行われ、講演後に議論および意見交換があった。フタロシアニン類の持つ様々な特徴が紹介され、合成法の説明や電気化学特性・光特性を活かした「光線力学療法」への応用等に関するご講演があった。引き続き行われた2件目の講演では、金沢大学の高橋光信先生より「逆型有機薄膜太陽電池（逆型OPV）の研究開発を振り返って」のタイトルでご講演頂いた。最初に電気化学会北陸支部の会員へのメッセージがあり、その後、有機薄膜太陽電池の開発について、逆型素子の開発動機やドナー・アクセプター間の光誘起電子移動から始まるエネルギー変換等のご講演であった。いずれのご講演も有機半導体材料とその応用に関連する研究テーマであり、基礎研究から応用展開までを幅広く聴講できたことから、大変興味深い講演会となった。

企業見学会 2（参加 16 名）

日時：6月14日（金）13：15～15：15

場所：加賀東芝エレクトロニクス株式会社（石川県能美市岩内町1-1）

会社の概要と主要製品であるディスクリート半導体事業の事業内容、製造品目、研究開発などのご紹介があった。その後、半導体製造における前工程（製造）と後工程（組立）について現場見学があった。半導体の効率的な製造を実現するコンピュータ制御の生産体制が整備されていることが印象的であった。



以上